

NO.	タイトル	消費市場の取扱量からみた三陸養殖銀ザケ価格暴落の要因
氏名（所属）：清水幾太郎（中央水産研究所・経営経済研究センター・需給経営グループ）		
学会名等：北日本漁業経済学会第41回大会		開催日：2012年11月9～10日
口頭発表	ポスター発表	備考

【背景】 宮城県三陸銀ザケ養殖は2011年3月の東日本大震災によって甚大な被害を被った。その後水産庁の支援を受けて2012年5月に水揚げができるまでに復旧したが、産地価格は震災前の水準に比較して著しく暴落した（400円/kg → 240円/kg）。銀ザケ養殖関係者からは、チリ産養殖銀ザケ大量輸入や原発事故の風評による影響など生産から加工・流通の各過程で複数の要因が重なったためとの指摘がある。そこで本研究では、チリからの養殖銀ザケの輸入増大が価格暴落の主要因であるのか否かに焦点を当て、他に考えられる要因も含めて消費地市場における震災前後のサケマス類の需給動向を調べた。

【調査方法】 ①全国の中央卸売市場の中から東京都（築地）、横浜市、名古屋市、大阪府、岡山市、広島市の6市場を選び、2009年1月から2012年8月に至るサケマス類の月別データを抽出し、取扱数量、金額、平均単価を比較した。②複数の大手量販店バイヤーから震災前後の三陸養殖銀ザケ（養銀）と輸入サケマス類の流通状況について聞き取りした。

【結果・考察】 ①輸入冷凍サケ類全体では震災の前後を通して著しく増加したとは言えず、震災後は冷凍銀ザケ（チリ銀）の輸入量増加によって輸入冷凍サケ類に占めるチリ銀の割合が増加した。②養銀製品は1割が刺身用、9割が切り身として流通することから、養銀製品の大部分を占める切り身市場においてチリ銀との競合の影響を受け価格低下を招いた。③生鮮サケマス類は震災のあった2011年の秋季から6市場で輸入量の取扱が増加した。

その結果、2012年は三陸で養銀の水揚げが再開した時点ですでに輸入生鮮サケマス類が市場のニッチを占めていたため生食用の養銀価格が低迷した。養銀は東日本よりも西日本で需要が大きい、生鮮で食することができる唯一の養銀の供給が震災によって絶たれ、1年間店頭から消えた影響が非常に大きかった。しかし、養銀自体にも商品として市場での認知度が低かったなど、空いた流通期間の影響を払拭できなかった要因があった。

今後、三陸養殖銀ザケ身用製品の割合を高めることが重要であり、生産段階から加工・流通過程において一貫した供給システムを整え、輸入サケの影響を受けない競争力を持った品質の「刺身用養銀ブランド」を築く必要がある。

震災前後における三陸養殖ギンザケの市場流通状況を示した模式図

